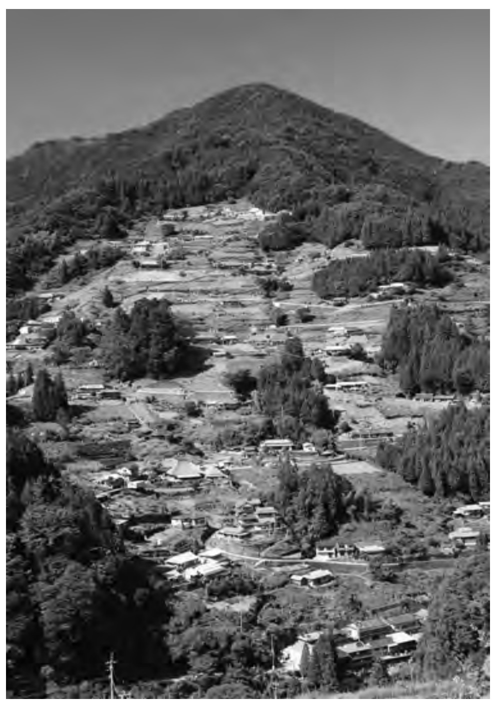
徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町

山里に残る日本の暮らしと原風景
―そらの郷


日本の原風景の中で農山村生活体験

山里で農作業体験

お茶作りにも挑戦

山里の伝統そば打ちを体験

「そらの郷」と古くから呼ばれる徳島県西部の山岳地帯は、四国の中央に位置する「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）にあります。西日本第二の高峰「剣山」を臨み、四国三郎「吉野川」と共生する当地は、まさに日本の原風景そのものであり、他の地域では忘れられつつある、古き良き素朴で温かみのある暮らしが今も息づくとともに、「祖谷のかずら橋」や「うだつの町並み」をはじめとする文化遺産や、豊富で新鮮な食材など、魅力的な地域資源にあふれています。

私たちは、この恵まれた環境で、あるがままの暮らしの中へ、日本の未来を担う生徒たちを迎え入れ、地域住民との生活体験を通して交流し、生業の喜びや大変さ、不便さなどを伝え、それに挑む精神力、乗り越える達成感、感動を体得させ、心の豊かさと生きる力を育みます。農山村の暮らし体験「民泊」は地域の生活体験を通して、自然の恵みに感謝し、人と人との関わりや絆など、真の豊かさとは何かを体験を通して伝え、生徒たちと受け入れ家庭が「心の交流」を行い、互いに高まりあう「精神文化の向上」を最大の目的にしています。地域内160軒、同時受け入れ480人可能の民泊家庭は日本の未来を担う青少年の健全な育成に関わるのだという自負を持ち、地域振興のため、さらには、地域住民の地域に対する自信と誇りの高揚のために、今まで以上に「安全・安心」の農山村生活体験・民泊づくりの構築に努めてまいります。

また、吉野川は別名四国三郎とも呼ばれる暴れ川ですが、普段はその豊富な水量のおかげで豊かな恵みをもたらしてくれる命の川です。そんな人々の暮らしを支えるもう一つの川の恩恵がラフティングに代表されるリバースポーツです。そらの郷の山並みを深い渓谷で刻み、荒々しく、時にはゆったりと流れる川面に身を任せるとき、自然と一体となった感動を味わうことができます。吉野川を愛してやまないリバーガイドが、川や自然との付き合い方を紹介。民泊とは異なる視点から、そらの郷をご案内します。

吉野川で人気のリバースポーツ・ラフティング。2017年10月に日本初の世界大会が開催される

一般社団法人 そらの郷
営業時間　平日8：30～17：15
※内容のお問い合わせは事務局・小川までお願いします
〒778-0003 徳島県三好市池田町サラダ1893-1
TEL 0883-76-0713　FAX 0883-72-0753
E-mail:sora@cn05.awaikeda.net
URL http://www.soranosato.jp/

奈良県・明日香村

日本はじまりの地、飛鳥
Amazing ASUKA
飛鳥を知らない人は誰もいない。しかし誰も知らない飛鳥がここにある。

都会から近い原風景と呼べる美しい棚田

心通う交流の後で思いもひとしお―離村式

「飛鳥」は物事が生まれ、築かれ、国が始まったところ。日本で育つ誰しもが学び、知らない人などいない。だからこそ一生に一度はここを訪れ、その目でしっかりと「国のはじまり」の場所を見てほしい。おいしい空気を吸い、古代から命をつないだ虫や鳥の囀りに耳を傾け、この地で採れた新鮮な作物を食していただきたいと願います。

その地で思いやる心が生まれ、信頼を築き、新しい自分が始まる。それはまさに飛鳥だから意味があり、古代からの遺伝子レベルで感じる何かが存在するのです。

修学旅行生の皆さんにとって飛鳥が新たな心の出発点となってくれるよう心を込めてお手伝いをいたします。

都会から近い原風景

飛鳥（明日香村・高取町・橿原市・桜井市）は京都・大阪から電車でわずか1時間程度。また車でも1時間半ほどの距離に古代を思わせる原風景が広がります。

中でも明日香村は昭和41年7月、古都保存法制定と同時に村全域がその対象地域として指定。銀行やコンビニまでもが瓦屋根に彩色壁など、明日香法により景観が守られています。

また万葉集に登場する飛鳥川・甘樫丘、富本銭が出土した飛鳥池工房遺跡など全域にわたって数多く存在する歴史的文化遺産とこれらの周囲の自然的環境が一体となって形成されていることが大きな特徴です。

民家ステイ体験

飛鳥地域でぜひ体験してほしいのは、古代の遺跡が点在するこの地で人々が育み続けてきたほんものの暮らし。当たり前のように遺跡と日常の生活が原風景の中に溶け込んでいる。そんな環境の中で受け入れ家庭の皆さんと生徒たちが農作業、史跡見学、趣味、食事作り、家業の手伝いなどを通して、深く交流し、共に学び高まり合うことを目的としています。

「大人ってすごい」「ここは近所の人たちみんな仲がいい」「野菜、おいしい」「おじさん怖かったけど、また会いたい」「ちかちゃん（受け入れ家庭のお母さん）大好き」など、滞在時間が長い分だけ交流の深さが増して、帰る頃には涙する生徒も少なくありません。

たった1泊あるいは2泊の短い時間に、初めて出会った人同士が共通の目的を持って共通の体験をする場。普段の生活では経験し得ない「心を遣う」交流が、より教育効果を引き出します。現在、登録家庭は150軒を超え、300人の受け入れが可能となりました。

ステイ先で農作業体験

民泊先で能面を学ぶ

あすか歴史探検隊

新発見が続く都塚古墳

あすか歴史探検隊

奈良県立大学地域創造学部生たちとともに、ロマンあふれる飛鳥の歴史や文化を学ぶコミュニケーションプログラム。

自転車や徒歩で、飛鳥の史跡を巡る歴史ガイドツアーの他、奈良県立万葉文化館内で歴史文化を学ぶグループワークをご用意。自己紹介に始まり、クイズ形式で歴史を学び、個々の意見を交換、最後のまとめ発表までと、活発な意見が飛び交います。また、近しい年代である大学生との交流だからこそ分かり合え、これから社会に出る生徒たちの心に深い経験をもたらします。

飛鳥の歴史的風土を体感し創造力や発言力、協調性が育まれることを目指します。

飛鳥ニューツーリズム協議会
〒634-0112　奈良県高市郡明日香村島庄5番地（明日香村商工会館内）
TEL 0744-54-1525　FAX 0744-54-1526
E-mail:info@asukacom.jp
URL http://www.asukacom.jp

主権者教育は体験・交流による

長崎県・五島市

一島一校のしま暮らし民泊
オンリーワンのおもてなし

「ほんもの体験」が生む民泊先での深いふれあい

長崎県五島列島・福江島を中心に、11の有人島と52の無人島からなる五島市。美しい海と豊かな自然があふれ、四季を通じて釣りや山海の味覚が楽しめます。

古くは遣唐使の寄港地として海外交易の拠点として栄え、またカトリック信仰の地として数多くの教会が点在し、さらに倭寇や空海の伝説が残り、城郭や武家屋敷など歴史文化遺産も豊富です。特に教会は、長崎県や関係市町と連携し、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指しています。

600人受け入れが可能な民泊

五島市では現在、豊かな自然と多様な農林漁業の営み、歴史や文化を生かした体験交流型教育旅行の受け入れを推進しています。「五島感動しま旅！」と銘打った一連のプログラム群でこだわっているのは、「ほんもの体験」であることです。

そしてその「ほんもの体験」の根幹は、島の暮らしをどっぷりと体験する「民泊」です。市内全域で最大150軒600人の受け入れが可能で、ありのままの暮らしの中、生徒の皆さんをお客さまではなく、家族の一員として迎え入れます。

一方「体験」は、民泊先などで受け入れ家族と一緒に過ごす家業体験、島ならではの漁業体験、豊かな自然を存分に楽しむ自然体験など多様なプログラムを用意し、季節や希望に応じたコーディネートを実施します。

ふれあい交流体験

五島の「しま育」

「五島感動しま旅！」では、五島ならではの「しま育」コンセプトのもと、教育効果を意識した体験プログラム群を設計、展開しています。

〝しまで育む・しまで育つ〟を目指す「しま育」は、「海育（うみいく）」「食育（しょくいく）」「共育（きょういく）」の3本柱からなります。

海との共生や環境保全について学び実践する「海育」では自然体験や環境学習、各種の漁業体験（防波堤釣り、船釣り、定置網、刺し網、地引網、すけ漁、灰ダコ捕り、ウニ割りなど）、魚さばき体験などを実施します。

定番の「防波堤釣り」は、地区や時期に関わらず実施できる上、アジやカサゴやベラなど釣った魚を持ち帰り、民泊先で自ら料理して食べることができます。地引網やすけ漁、灰ダコ捕りは、同時に100～200人規模での実施が可能です。

健全で豊かな食生活について学び実践する「食育」では、郷土料理づくりや農林漁業体験などを実施します。

そして、人との交流を深め、心地よい人間関係を築いていくためのコミュニケーション能力を育む「共育」では、民泊はもちろん、引き続き民泊先でいっしょに過ごす「ふれあい交流体験」（家業体験）など、島民との交流に力点を置いた体験活動を実施します。「ふれあい交流体験」は、個別の体験場所への移動の手間が省ける上、昼食もセットにできるため、人気となっています。

防波堤釣り

港でのお別れの光景

高校モデルコース

長崎平和学習と五島民泊が定番のコースとなります。民泊1泊の場合は、ふれあい交流（家業）体験を組み合わせることで深い交流を目指します。民泊2泊の場合は、中日の午前か午後にクラス全体でできる漁業体験などを組み込むことで、生徒の皆さん同士の交流も深められます。

五島市の強みと特徴

民泊と海を主舞台にした体験、さらに島ごとに他校受け入れのない「一島一校」の受け入れポリシー、そして地元の伝統芸能やご当地キャラなどを織り交ぜたお出迎えと、カラーテープの舞う島ならではのお別れの光景など、五島ならではオンリーワンのおもてなしが強みです。

一般社団法人 五島市観光協会
〒853-0015　長崎県五島市東浜町2-3-1
TEL 0959-72-2963　FAX 0959-74-3215
URL http://www.goto-shimatabi.com/

高知県・四万十・足摺エリア

「何にもないのに、なんでもある」
田舎だからこその体験

漁業体験では大漁に笑顔が広がる

四国の西南部に位置する高知県の四万十・足摺（幡多）地域は、日本最後の清流と言われている「四万十川」を中心に「足摺岬」など山、川、海と多様な自然環境に恵まれた地域です。

この豊かな自然環境を生かしたさまざまな体験プログラムを商品化しており、全国に誇れる体験型観光の先進地を目指して取り組みを進めております。

体験プログラム

体験プログラムは、「何にもないのに、なんでもある」をキーワードに豊かな自然が残っている田舎だからこそできる体験を中心に、食、文化、漁業、農林業など70種類を超える体験プログラムを提供しており、近年、ニーズの高まっている農山漁村での生活体験の受け入れ家庭も75軒を超え、1日最大300人程度の受け入れが可能となっております。

また、人気の高い高知の食文化の代表でもある「カツオの藁焼きタタキづくり体験」は、漁師のおじさん、おばさんがインストラクターとなり、生徒自らがカツオ1本を丸ごとさばいて藁で焼き、タタキを作って食べます。この体験によりカツオ漁の歴史や高知の食文化などを感じ、食材への感謝の気持ちを育むとともに、魚嫌いの生徒も自然と食べることができるようになります。

“最後の清流”四万十川でのカヌー

カツオの藁焼きタタキづくり体験

ホエールウォッチング

受け入れ家庭での食卓

また、最後の清流四万十川で体験できる「カヌー体験」では、初心者でも安全かつ気軽に体験できますし、カヌーから見る自然景観は都会で見ることのできない貴重な体験となります。

そのほか学習プログラムとしては、地震などの自然災害から身を守り、生きる力を育てる「防災学習」があります。過去に起こった事例を学ぶのではなく、これから起こり得る近い将来の災害について自分たちがどのような行動ができるのかを考え、1人1人の防災意識を高めるためのプログラムとなっております。

受け入れ体制

受け入れ窓口の一般社団法人幡多広域観光協議会は、高知県と幡多6市町村（四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村）で組織し、官民が一体となって体験プログラムの造成、受け入れ団体の質の向上、誘致活動の実施、広報PRに取り組んでおります。

受け入れでは、関係団体や地域が一体となったネットワークを築き、安全で信頼性の高い体験プログラムを提供できるよう取り組んでいます。

四万十・足摺地域でしか体感できない豊かな自然、食、伝統文化、生活や人と人との心のつながりを生徒に感じていただけるよう心掛けて進めており、教育関係者から高い評価を得ております。

一般社団法人 幡多広域観光協議会
〒787-0015　高知県四万十市右山383-15
TEL 0880-31-0233　FAX 0880-31-0660
E-mail:syuryo@hata-koiki.com
URL http://www.hata-kochi.jp/